

市川章人です。いつもお世話になっています。

原発の資料をいろいろなところで利用していただけて光栄です。どんどん使ってください。いろいろな方から質問が出たり、やっぱりわかりにくい、難しいという声もあるので、何度も内容や表現を工夫しています。

以前お渡しした資料も旧バージョンになりましたので新しいものを送ります。

ただし、今回は、これまで入れていた9電力会社の電力生産の原発依存のグラフや世界各国の原発に関わる動きを描いた世界地図はスペース確保のために落としました。

逆に文科省が進めた安全神話教育がどんなものかを付け加えました。もともとB4サイズ2つ折りの冊子にして配布するためにページ数をキリのいいところに収めるための措置です。いま諸団体から話の依頼が殺到です。1日に朝、昼、晩と出かける日もあります。とりわけ女性関連の真剣な対応と機敏な行動力には驚嘆します。多くの人に隠されていた真実を具体的に知っていただくことが大きな力になりつつあり、また長年ごく一部の生徒にしか真実を伝えられなかった「うっぶん」を、たくさんの一般の方々に伝えることで「解消」ができ、精神的にも大変良く、喜んでいきます。

原発そのものの存在を問うとともに、原発に象徴される日本の異常な社会構造へも切り込み、変革する転機にできる可能性を大きく広げています。もっともこの話ができる人が増えてほしいところです。

ついでに、資料を見ていただく人から、市川って何者？という声も伝わってきましたので、資料をつくった責任上も、プロフィールと少し経験を書いておきます。必要なら使ってください。

市川章人

1948年生まれ、京都府福知山市夜久野町生まれ（1948）

京都市父子無区深草在住

現在、京都府立朱雀高校および桂高校の非常勤講師（理科担当）、

京都大学理学部で原子物理学を専攻、学生時代の実験で、ガンマ線を隣室からあびる事故も経験。

被ばく検査の診断は「直ちには健康に具体的な障害を引き起こすものではない。」（どこかで聞きましたね。）「しかし、将来ガンになる可能性はある。それについてはあきらめなさい」後半部分が専門家たちがごまかしてきた内容です。ガンの可能性を言わざるを得なくなると、次のようなことを平気で言っている専門家がいます。

「年間100ミリシーベルトで、ガンによる死亡率が0.5%上がるだけだからたいしたことはない」一人一人の命を全く念頭においていません。私のように浴びた個人があきらめてこの数値で納得させることはあっても、可能な限り被ばくしないように手立てをとるのが肝心であるにもかかわらず、そこをさぼって、一般人や作業員たちを危険にさらす口実などに使うようなことは許されません。

私は長年、高校物理の授業の中で、原発の講義とその危険性や実態を積極的に話してきました。1986年は原発の授業をしているさなかにチェルノブイリ原発事故でした。

数日後の朱雀高校でバケツにとっておいた降雨にガイガーカウンターを向けたところ、普段にはない、たくさんのパリパリという放射線の飛び込む音がし、生徒と一緒にぞっとした覚えがあります（古い機具で正確な数値の測定まではできていません）。

2010年夏には、文科省の“安全神話”教育を推進する事業の一環で、桂高校物理選択生徒の「もんじゅ」見学に付き添いました。厳重な警備のもと、山の中腹から眺めるだけで、中を全く見せることなく写真も撮らせません。別の湾にあるPR館では、ガイド嬢が模型を見せながらいかにすばらしいか、いかに安全に努力しているかを説明してくれました。彼女に質問してもどうしようもないので、遠くにいた男性を捕まえて、他国の失敗と撤退や14年間もんじゅを止めざるを得なかったが事故について質問しましたが、「いや大丈夫だ。日本の研究を世界が待っているんだ」と胸を張って答えてくれました。その語、1か月もしないうちに3.3トンもの機材を原子炉内に落として、再びもんじゅは止まったままになりました。

もんじゅ見学に行くバスの中で、原発やもんじゅの実態を話しましたが、その内容にもっともビビったのは生徒ではありませんでした。運転手さんとバスガイドさんでした。生徒たちは事故が再び起きた時「いっていたとおりになった」と納得しきりでした。